



山本 良一

環境技術革新を引き起こし、普及させる。

## エコエフィシエンシーとエコデザイン技術特別研究会 RC-17

### 1. 幹事

山本良一（東京大学 生産技術研究所 教授）  
小田克郎（東京大学 生産技術研究所 助教授）  
鈴木淳史（横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授）  
中原秀樹（武蔵工業大学 環境情報学部 教授）  
益田文和（東京造形大学 教授）  
木俣信行（鳥取環境大学 教授）  
足立直樹（株式会社レスポンスアビリティ 取締役）

### 連絡先

山本良一（代表幹事）  
Tel : 03-5452-6303  
Fax : 03-5452-6305  
e-mail : yamamoto@iis.u-tokyo.ac.jp

## 2. 主旨

本研究会は「環境に配慮した新しいモノづくりと持続可能経営」を環境効率（Eco-efficiency）とエコデザイン（Eco-design）の見地から考察する研究会として1999年に発足し、略称をSPEEED（Special Project on Eco-Efficiency and Eco-Design）としております。2006年は57社のご参加をいただきました。

2006年度は「環境と両立する経済社会をどう実現するか」をテーマに箱根・小田急山のホテルで研究会を開催し、“サステナビリティの科学と技術、エコ・エコノミーとLOHAS、エコ・イノベーションとLOHAS”について活発な討議を行いました。また、製品サービスシステム／エコサービスについて調査を行い、日本のサステナブル・ビジネスモデル開発の現状について取りまとめました。

2005年10月より2006年4月にかけて北極海氷72万平方キロメートルも劇的に消失するなど地球温暖化の加速を示すと思われる現象が観測されるなどの情勢の変化を受けて、SPEEED研究会として気候リスク回避のための「エコ・イノベーション推進方策」を議論しました。

2007年度は主として以下の研究を行うことを目的とします。

- (1) ヨーロッパにおける3Cプロジェクト（Clean, Clever, Competitiveness）、エコ・エフィシエンシーを普及させる（Going Global on Eco-Efficiency）などの新しい環境政策動向を学び、日本のエコプロダクツ開発戦略について討議する。
- (2) エコデザイン、ユニバーサルデザイン、LOHASデザイン等を発展させたサステナブルデザインについて討議する。
- (3) エコサービスあるいはサステナブル・ビジネスモデルについて討議する。

## 3. その他

年会費 : 20万円

定員 : 2～3名／社

- 運営方法 : (1) 年5回程度の定例研究会を中心にして、上記の3課題について討論し、成果を様々な形で取りまとめ公表する。
- (2) 定例会の他に箱根で合宿形式の短期集中勉強会を開催する。